

食文化の分野では、豊かな食を楽しんだ江戸の人々の様子を、歌川広重・歌川豊国（三代）による錦絵「東都高名會席盡（とうとうめいかいせきづくし）」、行楽や宴席を華やかに演出した漆器の提重（さげじゅう）などを通して紹介します。これらからは、現代へと続く和食文化の豊かな展開を垣間見ることができるよう。

さらに、武士の魂である武具、日本初の磁器誕生から世界的な輸出産業へと発展した伊万里焼をはじめとする陶磁器、室内を気高く彩った蒔絵漆器の調度品、江戸切子などのガラス工芸品もあわせて展観します。



日常に美を見出し、心豊かに生きた江戸の人々の「時のかけら」。多彩な美術品を通して、当時の優れた美意識と職人たちの卓越した技をぜひご堪能ください。



歌川広重・歌川豊国（三代）
- 東都高名會席盡 -
三代目助高屋高助の名古屋山三
（紙・木版）1853 年



色絵花卉文八角瓶
(磁器・柿右衛門様式) 1670-90 年代

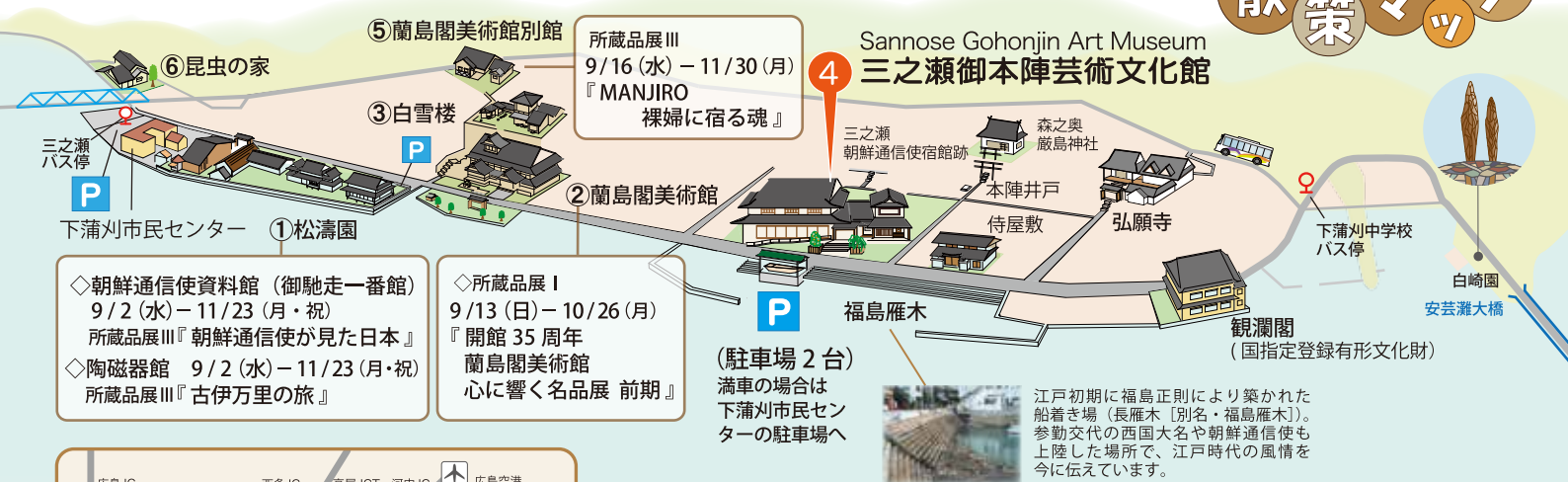


平目地初音蒔絵硯箱（漆・蒔絵）



色絵山水丸文折紙形小皿
(磁器・古九谷様式) 1640-50 年代

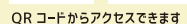
散策マップ



呉市内から国道 185 号線を竹原方面へ。安芸灘大橋（有料）を渡った最初の島が下蒲刈島です。下蒲刈市民センター前の無料駐車場をご利用ください。

[バスに関するお問い合わせ：瀬戸内産交（株）TEL 0823-70-7051]

バス時刻表



QRコードからアクセスできます